旅行商品番号：OSSBN-TOUR-2025-03-001

MWC Barcelona2025
調査報告書
（サンプル）

2025 年 3 月 11 日

OSS BroadNet Inc.

All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025

目次

1. 全体傾向 ……5

2. 第一日目（3/4） ……9

2.1 Huawei Technologies Co. Ltd 9

2.1.1 企業概要 9

2.1.2 展示内容・考察 9

2.1.3 その他（Honor） 11

2.2 Ericsson 12

2.2.1 企業概要 12

2.2.2 展示内容・考察 12

2.3 Google, LLC 15

2.3.1 企業概要 15

2.3.2 展示内容・考察 15

2.4 CommScope (Ruckus & Andrew) 16

2.4.1 企業概要 16

2.4.2 展示内容・考察 16

2.5 楽天グループ株式会社 19

2.5.1 企業概要 19

2.5.2 展示内容・考察 19

2.6 Samsung Electronics Co., Ltd. 20

2.6.1 企業概要 20

2.6.2 展示内容・考察 20

2.7 Orange 21

2.7.1 企業概要 21

2.7.2 展示内容・考察 21

2.8 Telefónica SA 23

2.8.1 企業概要 23

2.8.2 展示内容・考察 23

2.9 Deutsche Telekom AG 24

2.9.1 企業概要 24

2.9.2 展示内容・考察 24

All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025

2.10 Xiaomi H.K. Limited **26**
2.10.1 企業概要 26
2.10.2 展示内容・考察 26
2.11 ZTE Corporation **28**
2.11.1 企業概要 28
2.11.2 展示内容・考察 28
2.12 Qualcomm Technologies, Inc. **30**
2.12.1 企業概要 30
2.12.2 展示内容・考察 30
2.13 Vodafone **33**
2.13.1 企業概要 33
2.13.2 展示内容・考察 33
2.14 Nokia Solutions and Networks Oy **34**
2.14.1 企業概要 34
2.14.2 展示内容・考察 34
2.15 Cisco **35**
2.15.1 企業概要 35
2.15.2 展示内容・考察 35
2.16 Starlink **36**
2.16.1 事業概要 36
2.16.2 展示内容・考察 36
2.17 KDDI **37**
2.17.1 企業概要 37
2.17.2 展示内容・考察 37
2.18 NTT DOCOMO, INC **39**
2.18.1 企業概要 39
2.18.2 展示内容・考察 39

3. 第二日目（3/5） **41**
3.1 Amazon Web Services, Inc. **41**
3.1.1 企業概要 41
3.1.2 展示内容・考察 41
3.2 JAPAN Pavilion **43**
3.2.1 ブース概要 43

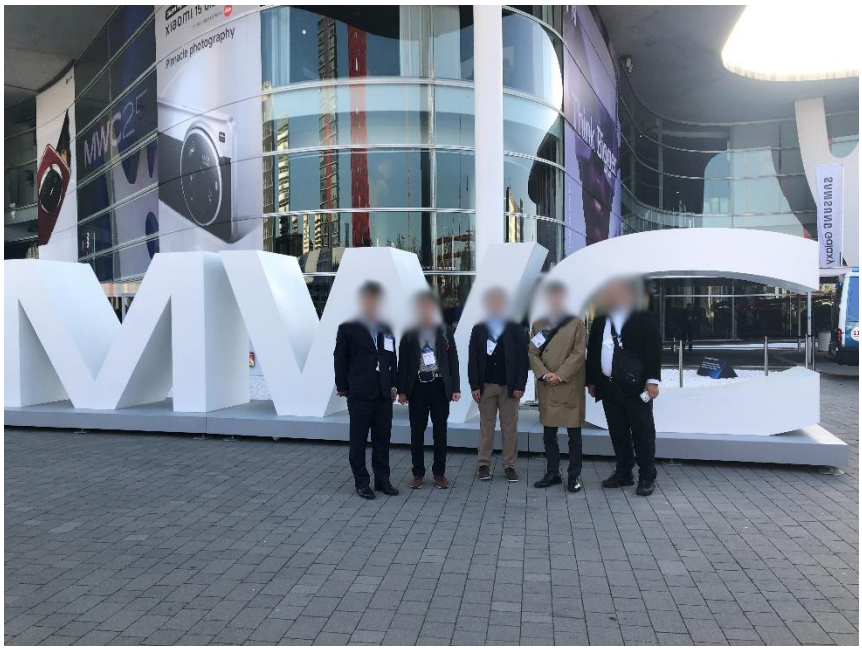
All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025

3.2.2 展示内容・考察 43
3.3 STMicroelectronics 44
3.3.1 企業概要 44
3.3.2 展示内容・考察 44
3.4 4YFN 46
3.4.1 展示概要 46
3.4.2 展示内容・考察 46
4. その他 47
4.1 バルセロナ TMB（地下鉄）への試乗 47
4.2 スペイン Renfe（近郊電車）への試乗 48

購入者の属する組織内での報告以外の目的での本書の複製・配布・流用・加工を禁じます。
表現の簡便の為、本書中に登場する各企業様の社名への敬称は、全て省略しております。
同様の理由から、各社の登録商標・商標への®または TM マークの付記は、全て省略しております。

All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025

1. 全体傾向



2025 年も例年同様、スペイン・カタルーニャ州バルセロナ市内の Fira Gran Via にて MWC2025 が開催され、2,700 以上の会社・団体が出展した。2025 年のテーマは、人工知能(AI)を中心とした融合(Converge)、連結(Connect)、創造(Create)の 3 つであった。
GSMA 公式によると、2025 年の参加者総数は約 10 万 9 千人との事。2024 年から約 8 千人増、見掛け上は過去最高だった 2019 年の水準にほぼ戻った形となった。
GSMA の試算では、本イベントはバルセロナ市と周辺地域に約 5 億 5 千万ユーロの直接的な経済効果をもたらしているとの事。この経済効果を更に積極的に取り込むべく、会場内にはカタルーニャ州独自のパビリオンが広く配置され、4YFN でも多くのバルセロナ市及び近郊のスタートアップの参加が目立っていた。
地域振興策としての MWC が順調な成長を遂げた一方で、主たる展示企業の顔ぶれや各社の展示テーマは、生成 AI の登場により各社共大きく変わり出した昨年に引き続き、今年はトッププレイヤーの入れ替わりと変質が更に進んだ印象を受けた。

コロナ禍中の 2020～2022 年頃のオンライン展示では、5G OPEN RAN や 6G に向けた取り組みを強調する展示がまだまだ多く、中でも従来からの“G”分野の強豪である Ericsson と Nokia が、OPEN RAN 等様々なオープン標準技術への積極的な研究開発投資へのコミットで強い存在感を放っていたが、今年の両社の展示内容は、AI や産業用ローカル 5G 等の応用ビジネスへと大きく様変わりし、特に Nokia に至っては、以前のメインであったキャリア向けの RAN 機器の展示がほぼ姿を消し、Camara 等ネットワーク API の活用や、工場・工事現場等の産業領域への応用技術の方に展示テーマがシフトしていた。2023 年に同社が継続を断念した 5G クラウド基盤の独自開発努力が影響している可能性もあるが､要は巨額の 5G 先行投資の回収が今一つ上手く行っていない事が、方針変更の主な背景事情であろう。

All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025

一方の Ericsson は、自社発ベンチャー企業である Aduna 社による 5G クラウド化のアライアンス活動やネットワーク自動化等、依然キャリアを対象としたテーマを展示してはいたものの、ブースの中心には他社の AR/VR/XR やスマートグラス、スマホ製品を並べ、AI による顧客体験の革新を強く打ち出す等、従来の 5G リーディングベンダーとしての強気の姿勢から、未だ手探り状態ではあるが Nokia と同様に、応用領域に展示テーマを舵切りしつつある印象を受けた。

翻って独自の中華標準を推進する Huawei は、昨年から更に増床した広大な展示スペースに、アプリ開発＆クラウド基盤からコア・基地局・端末機器・センサー類まで、”G”分野のネットワーク要素をハード・ソフト共に全て自社陣営で揃える垂直型の見せ方であり、一頃の米国政府による同社叩きの記憶を吹き飛ばすかのような華やかな展示内容であった。
5G 市場の長い停滞により、ここ数年で Nokia と Ericsson がキャリア向け 5G 事業部門の大規模リストラに至った一方で、Huawei は対象市場を欧米の主要キャリアから新興国の通信インフラや産業用途に移し、かつ持ち前の世界の工場たる深圳パワーによる価格競争力も相まって、欧米系の競合他社よりも好調に事業が推移している様子である。同社の 2024 年度の Annual report によると、売上高ベースでは前年比 22%増、従業員数ベースでは 2021 年から 2023 年に掛けて 1 万 2 千人を増員、総勢で２０万 7 千人に達したとの事。但し、この好調が中長期的にも継続し、中華標準が本当に世界市場での勝ち組となり得るかについては、2025 年 3 月の現時点では判断材料に乏しく客観的な予想が困難であり、来年以降も引き続き、MWC 等の場を活用した定点観測が当面は欠かせなさそうである。

Ericsson と Nokia という欧州を代表する 2 大通信メーカーの展示テーマの変質、具体的にはマネタイズの困難性が残念ながらほぼ結論付いた感のある各”G”の機器製造ビジネスから未発掘領域である各種 AI の利活用ビジネスへの大幅な舵切りを受け、MWC では従来裏方であった Google、AWS、Microsoft 等の IT 系プラットフォーマー、Intel、Dell 等の PC サーバーメーカー、Qualcomm、Broadcom、ST Micro 等の半導体メーカーが、それぞれ独自の視点・解釈による AI の利活用で、MWC 会場での存在感を増していた。

AI が主たる展示テーマとなる兆候は、昨年の MWC2024 でも既に顕れてはいたが、2024 年は生成 AI の本格的な登場が世界に衝撃を与えた 2023 年の直後でもあり、良くも悪くも流行り物として、猫も杓子も AI といった感じの、取って付けたような印象の展示も多く見られた。MWC2025 では、昨年迄の狂騒が一巡・沈静化した様子であり、生成 AI・ML・エッジコンピューティング等、用途・局面に応じた合理的な AI の応用例が、様々な形で提案されていた。

AI 分野では特に Google が目立っており、同社ブース内の計 12 のステーション中、少なくとも 9 つが”With Gemini”ロゴを付けた協力他社とのコラボによる応用事例展示であった事に加え、ここ数年来の MWC では沈静化傾向にあったスマホ・タブレットの展示が、Google

All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025

の”With Gemini”ロゴでかなり息を吹き返した印象で、Samsung Galaxy、ZTE が Gemini 搭載を強く謳った製品展示を行っていた。
Huawei/Honor、Xiaomi 等の中華系スマホメーカー各社も、非 Gemini ではあるが、各社の独自 AI 搭載を強調した展示が花盛りであった。
一頃の日欧米勢は姿を消し、中韓勢ばかりの展示であった点に時代の変遷を感じた。

AWS は、従来のプラットフォーマーとしてのある意味で中立的な姿勢から転じ、マルチテナントのスマートホーム基盤サービスの 2025 年 3 月からの商用提供開始や、Nokia と共同開発した 5G 基地局向け専用サーバーの 2025 年後半からの出荷計画など、事業・ソリューションに一歩踏み込んだ内容の展示を行っていた点が興味深かった。

通信事業者は、Orange やテレフォニカのような Camara API 等のネットワーク API を中心とした技術志向と、KDDI や Vodafone のような実際の体感事例を重視した顧客志向に、展示方針が大きく分かれていた印象を受けた。NTT ドコモとドイツテレコムの 2 社は、これらの双方を適宜配分した中間的な内容だったように思う。各社共、これからの方向性を各々の立場で暗中模索しているが故の展示方針差なのかも知れない。

4YFN は、冒頭にも書いたが、地元スタートアップの比率が更に増した印象だった。
国内外の様々なメディアで、昨今の CES と MWS の同質化が話題になる事が多いが、CES の 4YFN に相当する Eureka では、地元からの参加比率は左程でもない。
この辺り、独立心旺盛なカタルーニャ州のお国柄・土地柄が故の違いかも知れない。

All Rights Reserved, Copyright© OSS BroadNet 2025